



おいしいものは好きですか？

第3回 買い物と言えば便利なスーパーマーケット

大坪 史人

前回は、一般的な生鮮品の流通についてみてみました。この原稿を書きだしたころは、職場近くのスーパーマーケットでもタケノコがいっぱい販売されていました。岸和田のタケノコは柔らかくてとってもおいしかったです。

さてみなさん、食べ物を買うところはいっぱいありますよね。商店街の専門小売店(八百屋さんや魚屋さん)、コンビニエンスストア、最近インターネットの宅配なんかも普及してきました。なかでもスーパーマーケット(以下、食品スーパー)は、非常に便利です。一店舗で、野菜、魚、肉、2004年の食糧法改正により米、規制緩和により酒も購入できるようになりました。多くの人が使っていると思います。食品スーパーの特徴と聞かれると何を思いつきますか？簡単に説明すると、良く使う食料品や日用品を、買い物客のセルフサービスによって商品を購入できるようにした小売事業と言われます。売り切れがほとんどないのも食品スーパーならではのですね。ちらしを見比べると、あの店は牛乳が安い、ここの店は卵が安いなど店舗ごとに様々な値段で売られるのも特徴です。では、どうしてこのようなことができるの

でしょうか。それには、流通が大きくかかわっています。主なものを紹介します。食品スーパーでは、前回書きました一般的な卸売市場流通も使っています。売り切れがなかったり、様々な種類のものを販売できたりするには、卸売市場が大きく関わっています。売り切れがない代わりに「最近野菜が高いな」なんてことも市場を通して安定的に仕入れているからおきることなのです。それだけでなく、大型産地からの直接仕入れ(北海道のじゃがいもや玉ねぎなど)、同じ系列のお店での一括仕入れなどで、販売する値段に差異を出されたりしています。また、地元の野菜を買い取った直売コーナーや〇〇地域のインショップなんかもよく見るようになりました。便利な分、色んな流通を使って仕入を行なっておられるのが食品スーパーです。

次回は、2000年くらいから急激に増えてきた農林水産物直売所についてみていくことにしましょう。

くおつぼ・ふみと / 和歌山大学 岸和田サテライト
地域連携コーディネーター>

第103回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

「川」って足りてる？

—地域の自然資源を楽しみながら使う技—

話題提供者 田代 優秋 (和歌山大学COC+推進室 特任助教)

日時

2018年6月20日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

川を楽しむ一普段の暮らしの中で「川」を思う機会なんてないかもしれません。まちづくり、防災対策、環境保全とか難しそうな場所ではないはず。明治から昭和にあった面白い使い方も含めて紹介しながら、明日からのあなたの「川」の使い方が広がる時間にしたいと思います。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日(2月と8月を除く)の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催するmini和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX : 072-433-0875

岸和田サテライト 検索